

## 松本地区の現地機関の長との意見交換

### 【論点】

現地機関は地域の課題に総合的・横断的に対応できているか。

- ・資料 1－1 松本地方事務所
- ・資料 1－2 松本保健福祉事務所
- ・資料 1－3 松本建設事務所
- ・資料 1－4 安曇野建設事務所

## 松本地方事務所

### 地域課題及びH27 重点事業

#### 【地域課題】

- ・担い手不足や、野生鳥獣による被害への対応等の課題がある農林業について、農畜産物の生産振興や森林の保全など、活力ある農林業づくりに向けた取組を行っている。
- ・管内には、牛伏寺断層を含む糸魚川－静岡構造線断層帯が縦断しているほか、焼岳、乗鞍岳が気象庁の「常時観測火山」に指定されている。震災や火山災害に備え、地域住民が安心して暮らせる災害に強い地域づくりに取り組むことが課題となっている。
- ・豊かな自然や歴史的文化資源に恵まれるとともに、都市圏から比較的近距離にあるという地理的な好条件と県内外へ延びる交通網など松本地域の特性を最大限発揮しながら、多くの人々が訪れる魅力ある地域づくりを進める必要がある。

#### 【H27 主な重点事業】

- 1 活力あふれる産業づくり
  - ・「おいしい信州ふード（風土）」の消費拡大
  - ・「野生鳥獣被害先端地域サポート隊」の編成による鳥獣被害の抑制
- 2 災害に強い地域づくり
  - ・自助・共助による地域防災力の向上
  - ・広域的な火山防災対策の推進
- 3 魅力ある観光地づくり
  - ・観光資源の発掘と周遊観光ルートづくり
  - ・松本山雅の J 1 昇格を契機とした観光 P R 等

### 現地機関相互の連携や本庁との連携など、組織運営上の課題

- ・しあわせ信州創造プラン（松本地域編）及び松本地域ビジョン、さらには地方創生の推進に向け、現地機関の相互連携による横断的な取組が一層重要となっている。当管内では、現地機関による協議組織である行政連絡協議会やプラン・ビジョンの推進のためのワーキンググループ、市村との協議組織である地域戦略会議などにより、施策の推進に向けた情報共有、意見交換等を行っている。
- ・県の発信力の一層の向上を図るため、地域住民に身近な県現地機関が一体となった効果的な情報発信を行う必要がある。当地域では、他の現地機関にも呼びかけ、ブログ、コミュニティ放送、ミニコミ誌などを活用した情報発信の充実に取り組んでいる。

### 市町村支援に関する現状及び課題

- ・市村に対しては、松本地域ビジョンに沿って、「地域発 元気づくり支援金」をはじめ、農林業や商工業の振興に向けた補助制度等により支援を行っている。また、自主性・主体性を尊重しながらその実情に応じ、他の現地機関と連携し、活性化を支援するチームを立ち上げ、農林業等の専門的な分野における支援・助言や地域の魅力の情報発信など、様々な取組を行っている。

## I 活力あふれる産業づくり

### 1 「おいしい信州ふード（風土）」の消費拡大

- 地域農業に携わる関係機関・団体に加え、宿泊施設や飲食店など地域全体が一体となり、松本地域農産物の特徴と総合供給力を生かした多様な商品・サービスを地域ぐるみで提供し、消費者から選ばれる産地づくりを目指すための活動を行っている。

《H27 主な事業》

- ・「信州まつもと鍋」の普及による地産地消の促進と地域振興
- ・「安曇野ドレッシング」の開発とPR



「あづみの華御膳」の商品化 (H26)

### 2 「野生鳥獣被害先端地域サポート隊」の編成による鳥獣被害の抑制

- 生坂村・麻績村・筑北村の北部地域は、ニホンジカの長野・北安曇方面への拡散の前線となっている。3村では10年間でニホンジカによる被害が4倍に増加し、ニホンジカの北上による影響が表れている。
- このような状況に対応するため、被害発生区域や移動ルートを示した「ニホンジカ行動マップ」を作成し、行動範囲の把握等のマクロの視点で被害拡大の抑制を検討する。
- マップの作成に当たっては、県職員が積極的に地域に入り農林業者と交流するとともに、より高度な防除・捕獲等の支援を行うための地方事務所等の職員によるサポート隊を立ち上げた。

## II 災害に強い地域づくり

### 1 自助・共助による地域防災力の向上

- 松本地域の防災上の課題である内陸直下型地震と火山噴火をテーマに、行政・自主防災組織・住民等を対象とした防災セミナーを開催し、防災意識の啓発、自助・共助の取組の促進を図る。
- ・「自助・共助で高める地域防災力セミナー」の開催  
第1回（8月）「大規模地震に備える」、第2回（10月）「火山との共生をめざして」

### 2 広域的な火山防災対策の推進

- 焼岳と乗鞍岳は、気象庁が24時間体制で監視・観測を行う「常時観測火山」であり、山麓には上高地や乗鞍高原が所在し、住民はもとより登山者・観光客の安全確保対策が求められている。
- 焼岳と乗鞍岳の火山防災対策は、長野・岐阜両県合同で設置した「焼岳火山噴火対策協議会」及び「乗鞍岳火山防災協議会」において検討・実施している。
- ※「協議会」：長野・岐阜両県及び松本・高山両市の防災関係機関、国関係機関、山小屋・観光団体、火山専門家等で構成（事務局：松本地方事務所・松本市、飛騨県事務所・高山市）

#### 【焼岳の火山防災対策】

- 火山防災体制の強化：火山防災訓練の実施等
- 登山者等の安全確保対策：登山口への注意喚起看板の設置、住民・登山者向けの火山防災マップの作成等

#### 【乗鞍岳の火山防災対策】

- 火山防災体制の整備：噴火シナリオ、火山ハザードマップの作成
- 登山者等の安全確保対策：主要観光拠点への火山周知ポスターの掲示



焼 岳

## III 魅力ある観光地づくり

### 1 観光資源の発掘と周遊観光ルートづくり

- 松本地域の新たな、知られざる観光資源の洗い出しと創出を図るため、県、市村、商工・観光関係団体等で構成する「松本地域観光戦略会議」に分科会として設置した「観光資源再発見検討会」により、滞在型広域観光ルートの商品化造成を見据え、優れた観光地との連携による広域的観光地づくりや選ばれる周遊観光ルートづくりに向けた検討を進めている。
- 「松本地域観光戦略会議」では、市村を超えた広域連携の強化と観光情報共有化の推進を図るなど、地域を挙げた観光振興のための取組を推進している。

### 2 松本山雅のJ1昇格を契機とした観光PR等

- 松本山雅FCのJ1昇格を機に、アルウィンに来訪するアウェイサポーターに対し、地方事務所と管内市村等が連携し、おもてなしの観点から地域産品の試食・試飲、観光PRを積極的に行い、リピーターを増やし、地域への誘客と地場産品の販路拡大につなげる。



旧国鉄籐ノ井線廃線敷  
(安曇野市)

## 松本保健福祉事務所

## 地域課題及びH27 重点事業

- ・ 地域医療構想策定への対応
- ・ 在宅医療・地域包括ケア体制の充実に向けた対応
- ・ 広域救急・災害医療体制の整備、訓練への参加
- ・ 新型インフルエンザ・新興感染症対策の整備（住民ワクチン接種体制、中東呼吸器症候群（MERS）・エボラ出血熱への対応、等）
- ・ 産科医療体制の確保
- ・ 指定難病増加への対応

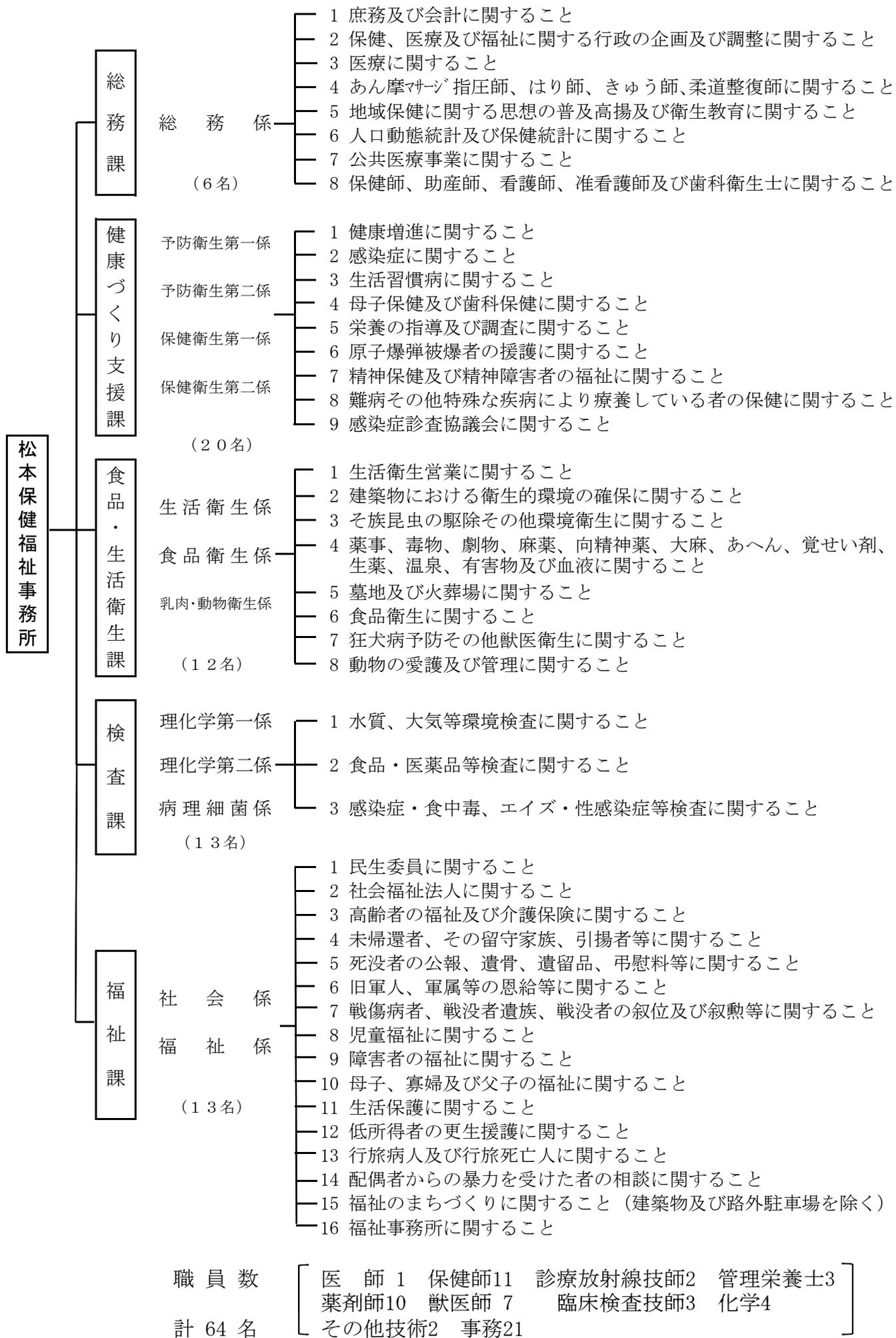
## 現地機関相互の連携や本庁との連携など、組織運営上の課題

- ・ 上記課題のように、近年医療を中心に業務遂行のためにより専門性の高い知識、見識が求められるが、人材確保・養成機能の強化が必要（特に総務部門、等）。
- ・ 当所は多種多数の許認可並びに監視業務を所管しているが、それに見合った人員配置となっておらず、健康危機事案発生時の対応が課題（特に精神保健福祉法に伴う通報、食中毒、感染症発生時、等）。
- ・ 技術職職員が多いが、専門分化が進む中で技術、知識の継承に課題がある。

## 市町村支援に関する現状及び課題

- ・ 各種保健業務をはじめ住民に密着した業務の多くが市村に移譲され、市村からは高度な専門知識による支援を求められているが、専門的・技術的拠点として多岐にわたる分野のプロフェッショナルを如何に育成するか。
- ・ 医療をはじめ保健、福祉に関する人的・施設の資源が市部に集中している中、如何に連携を取って周りの郡部の体制を確保していくか。

【松本保健福祉事務所の組織、業務内容及び職種別職員数】



## 松本建設事務所

### 地域課題及びH27 重点事業

#### 【地域課題】

- ・土砂災害、落石や河川氾濫などが発生するおそれのある危険箇所が多く存在する。また、地震や火山噴火などにより道路の寸断、集落孤立の発生など甚大な被害が発生するおそれがある。
- ・隣接圏域との交流人口の拡大を図るための道路網の整備が求められている。
- ・通学路であっても歩行者空間の確保されていない道路がある。
- ・松本市内の慢性的渋滞の解消が求められている。
- ・施設の老朽化の進展に伴う長寿命化対策が必要である。

#### 【H27 重点事業】

施策方針：「人が集う、自然と文化に囲まれた魅力あふれるふるさと」をめざして

- ・地域防災力の向上  
緊急輸送路の防災対策、広域河川改修、総合的な土砂災害対策 ほか
- ・快適で暮らしやすいまちづくり  
幹線道路の整備、観光地へのアクセス改善、渋滞対策、通学路の安全対策、維持修繕 ほか

### 現地機関相互の連携や本庁との連携など、組織運営上の課題

- ・多くのベテラン職員が退職し若手職員に入れ替わることにより技術の円滑な継承が課題である。また、執行力の低下が懸念される。
- ・用地業務に精通した職員の減少、土地開発公社職員等による支援の縮小により、用地取得に時間を要するケースが増えている。

### 市町村支援に関する現状及び課題

- ・技術専門員 1 名を中心に、補助事業、公共下水道事業、災害復旧に関する工法選定・工程、交付金申請書類作成、事業執行などへの市町村支援を行っている。小規模町村にあっては技術職員が少ない中、丁寧かつ詳細な説明が求められている。
- ・橋梁点検の支援、消防活動支援、土砂災害警戒情報の伝達、避難訓練開催支援、ハザードマップ作成支援を行っている。

**「人が集う 自然と文化に囲まれた魅力あふれるふるさと」をめざして**  
しあわせ信州創造プランがめざす松本地域の姿の実現に向け、各種事業に取り組みます。

**「しあわせ信州創造プラン」に基づく事業展開**



(一)大野田梓橋(停)線・八景山



(一)前田川・塩尻市北小野



(一)御馬越塩尻(停)線・中原



(街)内環状南線・中条

**地域防災力の向上**

災害による被害を最小限に抑え、県民の生命と財産を守るため、地域防災力の向上に取り組みます。

緊急輸送路の防災対策	(国)403号・矢越防災 他
広域河川改修事業	奈良井川、田川、女鳥羽川
総合的な土砂災害対策	砂防・牛伏川、急傾斜地崩壊対策・上竹田 他
土砂災害基礎調査事業	土砂災害防止法の指定調査、ハザードマップ作成支援
冬期交通の確保	雪寒地域道路・善知鳥峠、除雪事業
無電柱化の推進	(一)塩尻(停)線・塩尻市大門



(国)403号・矢越防災



(一)田川・松本市



(一)塩尻(停)線・塩尻市大門

**快適で暮らしやすいまちづくり**

身近な生活道路の整備・維持管理を行うとともに、ゆとりある住環境の整備により快適で暮らしやすいまちづくりを進めます。

暮らしを支える道路網の整備	幹線道路の整備…(国)403号・矢越防災(再掲)、(国)143号・会吉 他 危険個所の解消…(主)大町麻績インター千曲線・山清路 他 観光地へのアクセス改善…(一)上高地公園線・上高地 他 渋滞対策…(一)波田北大妻豊科線・島々～三溝新田、(街)内環状南線・中条 他 生活道路の整備…(主)塩尻鍋割穂高線・笹賀、(一)上今井洗馬(停)線・洗馬 他
通学路等の安全対策	(一)御馬越塩尻(停)線・中原 ほか
ゆとりある住環境の形成	(街)出川双葉線・出川～双葉、松本平広域公園の機能強化
道路の長寿命化修繕事業	橋梁…(主)塩尻鍋割穂高線・今村橋 他 トンネル…(国)158号・新入山トンネル 他 緊急輸送道路吹付法面…(国)158号・安曇 他 舗装…(国)158号・北新～赤松 他
ダムの適切な維持管理	奈良井ダム、北山ダム、水上ダム、小仁熊ダム
住民との協働による維持管理	住民参加による道路の維持管理(アダプトシステム)、道路・河川愛護活動支援



(一)上高地公園線・上高地トンネル



(主)塩尻鍋割穂高線・笹賀



(主)乗鞍岳線・前川渡大橋



松本平広域公園・アルウィン

## 安曇野建設事務所

## 地域課題及びH27 重点事業

## ・ 地域防災力の向上

安心して暮らせる川づくり

(一) 黒沢川 安曇野市 黒沢における調節池整備 ⇒ 早期の工事着手に向けた設計作業  
土砂災害から人命・財産を守る施設の整備 安曇野市 桜坂小瀬幅における急傾斜地崩壊  
対策

## ・ 快適な生活と経済活動を支える高速交通ネットワークの充実

地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」の整備 ⇒ 事業方針(案)の作成・公表及び地元へ  
の説明

## ・ 住民が安全に暮らせる環境の整備

通学路の安全対策 (国) 147号 安曇野市 神田町北、(一) 中堀一日市場線 安曇野市 温

## ・ 身近な生活道路等の整備・維持管理による快適で暮らしやすいまちづくり

身近な生活道路の整備 (主) 穂高明科線 安曇野市 常盤橋の道路改築

道路施設等の長寿命化 (国) 147号 安曇野市 穂高橋、富田橋

(主) 穂高明科線 安曇野市 安曇橋

## 現地機関相互の連携や本庁との連携など、組織運営上の課題

- 長野県災害対策本部地方部(松本)設置時には、松本地方事務所と連携し、当所管内の情報収集、緊急対応にあたることとしている。
- 大規模災害時に隣接建設事務所管内市町村への情報連絡員配置が必要となった場合、本庁と連携し、必要な人員の派遣に協力する。
- 流域下水道の維持管理業務については、県下水道公社への一括委託を廃し、本年度から新たに「犀川安曇野流域下水道事務所」を設け、県が直営管理している。半年余が経過したが、良好に業務遂行され、スムーズな移行が図られている。

## 市町村支援に関する現状及び課題

## ● 災害時における市町村への災害対策支援

安曇野市における災害発生状況の情報収集を迅速に行うとともに、必要に応じて技術的支援を行う。

## ● 万水川の内水対策に関する安曇野市への技術的支援

## 【現状】

- ・ 一級河川 万水川の下流域は、わさび田や養魚場等があり、多くの排水路が万水川に排水している。これら排水路は、万水川が増水し河川水位が大きく上昇した場合、万水川に排水できなくなることから、わさび田などが浸水し内水被害が発生するおそれがある。安曇野市では、内水対策は支川管理者が行うこととなっていることから、市を中心として関係者会議を発足し、調整や検討を進めている。

## 【課題】

- ・ 内水被害が発生するメカニズムや要因など、内水対策検討に必要な分析・解析は技術的な難易度が高い。このため、市から当所に対して技術的支援が要望されている。今後、市を中心とした調整・検討に合わせ、技術的支援を行っていく。

# 安曇野建設事務所の概要

## 1 管内概況 安曇野市(旧豊科町、旧穂高町、旧三郷村、旧堀金村、旧明科町の5町村が平成17年10月1日に合併)

### (1) 管内の状況 (H27.4.1現在)

	面積 (km <sup>2</sup> ) (対全県)	世帯数 (戸) (対全県)	人口 (人) (対全県)	道路延長 (km) (対全県)	河川延長 (km) (対全県)
安曇野市	331.82 (2.4%)	35,489 (4.4%)	95,461 (4.6%)	181 (3.5%)	136 (2.8%)
全 県	13,562.23	812,303	2,097,632	5,157	4,803

### (2) 事業概要 (H26年度実績)

区 分	国庫補助		県単独		県執行計	
	箇所数	事業費(千円)	箇所数	事業費(千円)	箇所数	事業費(千円)
一 般	20	874,400	34	1,569,500	54	2,443,900
災害復旧	0	0	0	0	0	0
小 計	20	874,400	34	1,569,500	54	2,443,900

## 2 組織及び業務

### ○安曇野建設事務所 27人

所長 — 次長	— 総務課長(次長兼務) —	— 総務係	6人	庶務、予算執行、工事事務、庁舎管理等
		— 維持管理課長 —	— 管理係	3人
	— 整備課長 —	— 維持係	4人	道路、河川、都市公園の維持工事、水防、除雪等
		— 計画調査係	3人	道路、河川等事業の計画調査、松糸道路等
— 用地課長 —	— 整備係	4人	道路、河川等事業の建設工事、設計、施工管理等	
			2人	工事に係る用地の取得等

### ○(付置)犀川安曇野流域下水道事務所 11人

所長	— 管理課長 —	4人	流域下水道の維持管理等
	— 整備課長 —	4人	流域下水道の建設、整備、管渠維持等

## 3 特記事項

### (1) 安曇野庁舎(単独庁舎)の管理等 (開所:昭和62年11月)

- ア 庁舎の概要 鉄筋コンクリート造・鉄骨造 4階
- イ 利用状況 当初は地方事務所連絡所、保健所及び農業改良普及所も入庁していたが、現在は安曇野建設事務所のみ。代わって公共的な9団体が使用許可により利用中。
- ウ 維持管理 完成後27年余が経過し、施設設備の経年劣化への対応が必要となっている。

### (2) 烏川溪谷緑地(都市公園)の管理等 (供用開始:平成14年4月)

- ア 公園の概要 開園面積:49.67ha(水辺・森林エリア)、利用料金は無料
- イ 来園者数 H24年度:33,400人 H25年度:29,300人 H26年度:28,300人
- ウ 維持管理 管理:指定管理者(一財)公園財団へ管理委託(常勤職員5名、管理料=31,431千円/年)  
市民協働の企画実施や満足度調査によるサービス向上等を図り、利用増に努めている。
- エ 整備 森林エリアの園路等整備の他、間伐、老朽施設の修繕・更新等の維持的工事を行っている。

### (3) 犀川安曇野流域下水道の管理等 (付置:平成27年4月)

- ア 事業概要 区 域:松本市(旧梓川村)・安曇野市(旧豊科町・旧穂高町・旧三郷村・旧堀金村)  
普 及 率:93.3%(H26年度末処理人口 95,856人)  
整備状況:①H26年度末処理面積 3,371ha(85.6%) ②幹線数 8幹線 51.2km(100.0%)
- イ 維持管理 終末処理場の維持管理業務は、H26年度まで県下水道公社へ一括委託していたが、外郭団体改革基本方針に基づき、H27年度からは県が直営管理している。
- ウ 整備 幹線管渠は全線完成し、今後は管渠維持と終末処理場設備の更新等がメインとなる。